外国人技能実習制度の“今”を伝える

iBridge

アイブリッジ通信

NEWS iBridge NEWS iBridge NEWS iBridge

Vol.20

技能実習生
入国再開

アイブリッジ協同組合では、結核対策として実習生が母国で行った胸部X線検査に加えて、そのX線画像を入国前に、公益財団法人結核予防会と連携し、再読影を行っています。

結核予防会は、国民の疾病予防と健康増進に寄与するとともに、結核研究所を中心に世界的課題である途上国の結核対策に国際的に貢献することを目的にしています。所管は、当組合理事長が局長を担っていた厚生労働省健康局です。

実習生の健康はもちろんのこと、施設の利用者様、職員様にも安心していただけるよう取り組んでいます。

第3回 オンラインイベント

外国人技能実習生

ミャンマー技能実習生がやってきた！

4月5日(火)
開催
しました

映像はコチラ！

新たな実習生の受入れ、すでに受入れた施設はどんなことを経験したのでしょう

当日、機材の不具合により放映することのできなかった映像のインタビュー内容をこちらでご紹介いたします。

インタビュー

技能実習生導入期における経験談

1 入国前はどんな準備をしていましたか？

まずは、ウェルカムボードとかを準備しました。本人たちの不安を和らげるために、職員の写真などを散りばめたりして、実習生たちが「ちゃんと受け入れられているんだな」と思えるような施設側の姿勢を見せました。加えて、業務の書類はひらがなで用意し、理解しやすいように準備をしました。

2 入国前と入国後のギャップはありましたか？

正直、初めは日本語がうまく伝わらないだろうと思っていましたし、読み書きも出来ないんじゃないかと思っていましたが、実際にお話してみたら、すごく日本語も理解していましたし、読み書きに関しても想像以上でした。そのあたりにギャップを感じました

3 やっておけばよかったと思ったことはありますか？

怪我をした時や体調を崩したときの体制を整えておけばよかったと思いました。実習生たちには「薬局」という概念がなく、そこで日本にはこういう店があるよというところからの説明をしました。私達もそこで、特別な目で実習生を見るのではなく、私達日本人と同様の生活を考えた方がいいのだと気付かされました。

4 現在も実習生に気を遣っていることは？

日本人だったら「こう言えば伝わる」ということも、実習生には伝わっていないことがあります。こういった文化や感覚の違いは日々感じているので、実習生にはちゃんと言葉で伝えるようにしています。なんとなく「理解しているだろう」と思わず、本人たちがどの程度理解をしているか常に確認しているようにしています。

5 日本人と違うなと思ったことはありますか？

実習生の話を聞いていると、親や兄弟といった、家族をすごく大切にしているなと思いました。日本では核家族が進んでいますが、家族に対する強い想いを聞いて、これは日本人も見習わなきゃいけないと思いますし、このように実習生から学ばされることが日々、多くあります。

6 実習生が来て１年。何か変わったことは？

ミャンマー人だからといって色眼鏡では見ないようになりました。実習生たちが日本に溶け込むために努力をしている姿を見て、フロア全体も明るくなりましたし、職員も仕事に対して前向きになっていきました。現在では誰にでも頼りにされる職員で、お年寄りからもすごく好かれています。

7 これから実習生を迎える皆さまへ一言

仕事やことばに関しては、日本人と同じで時間をかければ覚えます。私が万全にしておけばよかったと思ったのは「生活」の部分です。実習生たちが安心して生活できるという環境を作ることを第一に。そして次に「仕事」。初めから仕事仕事となってしまうと、実習生も現場の職員も不安になってしまうと思いますので、急がず、焦らずに仕事を覚えていっていただけるといいと思います。

インタビューに
ご協力いただき
ありがとうございました！

社会福祉法人さくら瑞穂会
特別養護老人ホーム 志木瑞穂の森
事務長　駒崎 浩一郎 さま
介護副主任　田中 薫 さま

新期に導入した法人様にインタビューしました

「第3回オンラインセミナー」でご紹介したインタビューに加えて、新たに1期生を導入された医療法人様から貴重なお話を伺えましたのでご紹介いたします。

導入を検討中の皆様、新期生受け入れ準備中の皆様、是非ご覧ください。

〇お話しをおききした皆様

医療法人社団　淡路平成会　東浦平成病院
(所在地)兵庫県淡路市
　実習責任者　鈴木　勇人　様
　総務課　田中　綾　様
ケアホーム東浦
　実習責任者　眞田　智弘　様

〇新たに第1期生を導入頂いた「東浦平成病院」と「ケアホーム東浦」(2021年1月配属)の方々に導入の経緯や導入後の良かった点、苦労話などを伺いました。

Q①:外国人技能実習生を導入したきっかけ

A:当病院の立地環境も有って、人材不足は慢性的な課題になっていました。
以前、インドネシア、フィリピンからのEPA採用経験があり、外国人職員を受け入れる風土がある程度できていたので導入を決定しました。

Q②:実際に導入頂いて、良かったと思える点

A:「ミャンマーの実習生は良い」と言う点は多くあると感じています。
・温厚な性格と仕事熱心さ、話をよく聞く習慣、年長者を敬う意識などが関係づくりに役立っていると感じています。
・控えめで本心をはっきり言わない性格の人が多く、悩みなどを理解するのに少し時間がかかる場合があると思います。

Q③:こんな点で助かっていると言う具体例

A:患者さま、利用者さまの中に外国語に興味を持っている方が実は結構いらして、技能実習生ならではの会話が生まれ、それが様々な活性化につながっていくことが新鮮な驚きでした。

Q④:実習実施に当たって、最も苦労した点や問題

A:・やはり、言葉の理解が一番苦労しました。
※携帯アプリの翻訳機能がかなり役に立ちました。

・生活習慣や生活マナー、集団生活のルールを浸透させるのに少し時間がかかりました。
生活指導員は、当初は注意深く見ることが大切と思います。
（例）住居の鍵を輪番で管理したが、閉め忘れが何度か続いた…など。

・コロナ禍で職員同士の親睦の機会も無く、交流も少ないことで生活に慣れることへの支障になったりストレスの要因になったと感じました。

Q⑤:言葉の問題や交流などの点で対策されたこと

A:・試験に合格した時などにちょっとしたお祝いをしたことで大変喜んでもらいました。
・アイブリッジ協同組合の協力でビンゴ大会を開催しました。
小規模なイベントでしたが　後々まで話題になるなどかなりの影響を感じました。

Q⑥:技能実習生、制度、弊組合に望むこと

A:実習生の働きが、患者さま、利用者さまや職員にとってもプラスになっているので、少しで技能実習期間が長くなることを願っています。

以上、ご協力ありがとうございました。

＼今月の実習生紹介／

KHIN HNIN YU(キン ニン ユ) さん （ミャンマー出身）

社会福祉法人平成記念会 介護老人福祉施設 ヴィラ町田

日本に来て、2年経ちました。

最初は日本の季節、食べ物になかなか慣れなくて困りました。 ミャンマーには夏、雨期、冬と三つの季節があります。 冬と言っても気温は通常25℃～30℃で、雪は全然降りません。

日本で初めて雪を見た時はとても感動しました。

日本の食べ物はミャンマーの食べ物と比べたら味が薄いと感じます。
ミャンマーの食べ物は油、ナンプラー、唐辛子などを結構使います。
日本に来た時、ミャンマーから調味料をたくさん持ってきた覚えがあります。
今はミャンマーの家族に頼んで送ってもらったり、ミャンマーのオンラインショップから買ったりしています。

一番好きな日本の食べ物はうどんです。

介護の仕事については、リーダーと先輩たちから丁寧に教えてもらったので大変なことはありませんでした。
最近は仕事に慣れてきたので、仕事の楽しさがだんだん分かるようになってきました。

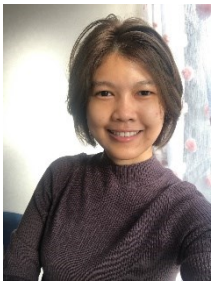
日本語の勉強はN1に向けて頑張っています。

そして、介護福祉士の勉強も始めています。将来の夢は介護福祉士として働いて、日本に家族を呼ぶことです。

＼今月のスタッフ紹介／

Hnin Mar Myint （ニン マー ミン ： ミャンマー連邦共和国 ヤンゴン市出身）

アイブリッジ協同組合 支援局



■ 趣味： アロマテラピー、謎解き、脱出ゲーム

■ 一言： 各種申請手続や定期巡回の他、実習生たちの悩み相談、仕事や生活の相談に対応しています。
Facebookのibridge実習生専用ページにも皆さんに役立つ情報を定期的にアップしています。

iBridge
cooperative association

アイブリッジ協同組合

所在地 ： 〒103-0027
東京都中央区日本橋3-13-5 KDX日本橋313ビル9F
ＴＥＬ： 03-6228-4196 FAX:03-6228-4896
ＵＲＬ： https://www.ibridge.or.jp mail: info@ibridge.or.jp

2022年4月25日発行